

---

# ひとりのきもち

深紫 流星

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ひとりのきもち

### 【著者名】

NZマーク

N3259C

### 【作者名】

深紫 流星

### 【あらすじ】

待つときつてこんな気持ち・・・かな？

こつてきます

朝、そう言われてひとつになるね。

いつもおみしこねで、仕方なく我慢してくるんだよ。

「飯はあまり食べないんだ。ひとりで食べても美味しいから。

早く帰つてきてくれることだけを考えて待つてるんだよ。

田舎町の遊び場だ」と思って出しながら待つてるんだよ。

いろいろな付き合ことがあるのはわかってる。でも、早く帰つてきてほしいんだ。

ひとつの時間はなんでこんなに長いんだ？

一緒にいる時間はすぐ過ぎてこのへんかな・・・。

鍵をあける音が聞こえると、玄関に走つてこへんだ。

ただいま

その言葉が、一番つれしい言葉になつちやつた。

一緒に食べる「」飯は本当に美味しいね。なんでだろ? ね。

待たされた分、いつぱいお話をしたくて付きまとひいてめんね。迷惑かな。

でも、優しく抱きしめてくれるね。幸せな瞬間だよ。

この時間が永く続けばいいのにな。

このまま時間が止まってしまえばいいのにな。

## おやすみ

この言葉も嫌いだ。寝てしまつて、朝になるとまたひとりになつちやうか?。

だからいつもベットのなかでも遊ぶじやうんだ。樂しい時間を終わりにしたくなつから。

仕事で疲れて帰つて来るのはわかつてゐるよ。

でもさみしかつたんだもん。少しへりこわがままでもいいよ。

となつて寝顔を見るとともも幸せだなつて思つよ。

寝るときはいつも神様にお願いするんだ。ふたりの楽しい夢が見れますよ」と云つて。

同じ夢を見る方法つてないのかな。

それなら寝てこるときも一緒に楽しいのにね。

おはよう

またおみしこ朝が来ちゃつた。

田曜日の朝ならいこのこな。せやく田曜日にならないかな。

今日も早く帰つてきてね。

いついらっしゃい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3259c/>

---

ひとりのきもち

2011年1月26日06時15分発行